

令和 4 年度 東京都立蔵前工業高等学校 定時制課程 学校経営報告

校長 劔持 利治

本校は、学力、意欲など多様化した生徒に、一人一人の能力に応じた丁寧な指導を行い、産業社会を支える工業技術者を育成するため、今年度も継続して、基礎・基本の定着を図るとともに、自ら学ぶ意欲と人権尊重の理念に基づいた豊かな人間性の育成に重点を置き、都民や地域社会から信頼される魅力ある学校づくりを推進している。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、行事内容や大会の規模を縮小することで、実施することができた。実施に当たっては、都の方針に基づく感染症対策を徹底し、教育活動を行った。

1 今年度の取組状況と自己評価

(1) 学習指導

- ① 基礎・基本の定着及び学習意欲の向上を図り、資格取得については、計算技術検定 3 級 2 名、移動式クレーン・玉掛特別教育修了者 1 4 名、プレゼンテーション作成検定試験 1 名の合格となった。引き続き、資格取得を奨励し、積極的に資格取得に挑戦する意欲の醸成を図る。
- ② 例年、実施している課題研究発表会については、生徒一人一人の個性を活かした研究を多くの生徒が ICT 機器を使用して実施した。1 年間のものづくりや研究成果を発表することで、主体性を伸長し、学習への成就感・達成感を実感させることができた。
- ③ 学校外における学修の単位認定については、新型コロナウイルス感染拡大により、検定への参加者が減少し、実績を上げることができなかった。
- ④ 三修制について、希望する生徒が目的意識や見通しが明確にもてるように、規定の見直しや説明会、事前指導等の改善・充実を図った。
- ⑤ 外部と連携した事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったが、Microsoft Office365「Teams」を活用し、生徒の健康観察などの、ICT 化を進めた。
- ⑥ また、オンライン活用した専門医派遣事業の講演会を実施することができた。国語科を中心に語彙力向上や読書活動の推進を図っている。
- ⑦ 東京都教育委員会の防災教育研究指定校事業に協力して、研究資料の提供を行った。

(2) 進路指導

- ① 1 年生からの計画的・段階的なキャリア教育を推進の結果、卒業生 3 名の進路状況は、2 名が進学、1 名が就職で、2 年連続進路決定率 1 0 0 % を達成することができた。次年度も引き続き進路決定率 1 0 0 % を目指す。
- ② 生徒への進路情報提供と進路意識の啓発を目的に、ハローワーク職員と連携して、進路説明会及び面接練習を実施した。
- ③ 卒業生を対象に、進路指導部担当者による「高校生のライフプランニング」の活用し、就職先の離職や進学先での退学などを安易にさせないための指導を行った。
- ④ 就職支援ナビゲーターや東京しごとセンターなど、学校外部の指導者による進路行事を行った。

(3) 生活指導

- ① 担任と生活指導部等とが連携を図り、支援が必要な場合には随時面談を実施した。また、スクールカウンセラーによる全員面接や 1 学年生徒対象にグループエンカウンター事業も実施した。

- ② 教職員は、相互に協力しながら体罰防止に努め、生徒には「いじめをしない・させない」指導を繰り返し行ったことで、体罰・いじめを未然に防止することができた。
- ③ 登校時に生徒昇降口において、生徒一人一人に対して、挨拶、健康観察、声掛けを毎日実施した。
- ④ 多様な学習歴をもつ生徒に対し、信頼関係の構築及び個別の課題を明確にするために面談を重視し、年間3回面談週間を設け実施した。
- ⑤ 毎学期の始業式、終業式において、相談センター連絡先、命の大切さ・ストレスへの対処方法などについて講話を行い、心の健康の保持に係る教育、自殺防止等、生命を尊重する教育を推進した。

(4) 特別活動・部活動

- ① スポーツ大会や蔵工祭などの生徒が主体となる行事については、新型コロナウイルス感染症対策を十分に施し、蔵工祭では、家族限定となったが、一般公開も行うことができた。生徒会役員選出及び生徒総会では、生徒が積極的に運営を行うことで、生徒会活動、集団活動に係る達成感や満足感が得ることができた。
- ② 生徒数の減少により、部活動の実施や大会参加が難しい状況ではあったが、テニス部・卓球部が大会に出場をした。また、文化部では、器楽部が熱心な活動を行っていた。
(部活動加入率 58%)
- ③ 今年度もスポーツ大会を6月に実施し、感染症対策に配慮しつつ、生徒が楽しめる競技を考えることで、スポーツ大会を盛り上げることができた。
- ④ 感染症対策のため、地域との連携・交流が困難な状況であったことから、校内美化活動や生徒会活動において、生徒一人一人に役割を与え、司会進行や発表する機会を意図的に設け、集団活動の充実や社会性の育成を図った。
- ⑤ 浅草消防署と連携した自衛消防訓練を計画したが、雪による悪天候のため訓練を中止して、ビデオによる災害時の心構えと教員による講話をおこなった。

(5) 健康づくり

- ① 5月に蔵前警察署の協力で、交通安全教室を実施した。自転車の実技演習を通して、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを体験し、交通安全への意識の向上を図った。
- ② 学校保健計画を策定し、年間を通して生徒の学校保健活動を充実させた。また、新型コロナウイルス感染症対策に係る指導として、検温・体調確認や手洗いの励行、手指消毒の徹底、給食時における飛沫感染の対策等について指導し、健康の保持増進を図った。
- ③ 高温多湿の時期は感染症に加え熱中症にも対策が必要なため、工場扇を計画的に購入した。冬季には加湿器を教室に設置するなど、健康・安全に留意した環境整備を行った。また、事故の未然防止、授業等における安全指導を徹底し、教職員間の連携を強めたことで、救急車要請等の事故発生は0件であった。

(6) 募集・広報活動

- ① ホームページに学校紹介動画を掲載するなど、コンテンツの充実を図り、学校の様子について情報発信を行った。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策のため、中学校訪問による広報活動は自粛したが、区役所の交換便を活用し、各中学校へ学校案内の配布を行った。

(7) 学校経営・組織体制

- ① ICT機器を活用した授業は、それぞれの教科・科目で実施することができた。また、1学年の生徒には、一人1台端末を活用した、授業への対応やMicrosoft Office365「Teams」を活用した授業などの授業研究を行った。

- ② 教職員の共通認識を図るとともに、円滑な学校経営に努めた。
- ③ 個人情報保護に関する研修や注意喚起を定期的に行った。
- ④ 特別支援教育委員会では、スクールカウンセラーや専門医の助言をもとに、東京都教育委員会にY S Wの継続派遣を依頼し、引き続き進路支援活動を行った。また、家庭からの協力が乏しい生徒については、こども家庭支援センター等の協力得て医療機関へ繋げるなど、特別支援教育に組織的に取り組んだ。
- ⑤ 会議資料を工夫し要点をまとめることで、会議の効率化を図った。学校閉庁日の活用や定時退庁の推進など、ライフ・ワーク・バランスの向上を図り、「月当たりの定時外在校時間が60時間を超える」職員は0名であった。
- ⑥ 全日制課程と定時制課程の職員の連絡会を定例会として実施することができなかった。本校は、全定分掌連絡会の概念がなく、三修制の授業や休憩時間等で時間調整が難しい状況である。
- ⑦ 新学習指導要領や本校のスクール・ミッションを踏まえ、グランドデザインを参考にしながら、スクール・ポリシーの検討を行った。

(8) 経営企画室

- ① 経営企画室の業務を通して、学校経営計画の実現に向けて取り組んだ。
- ② 自律経営推進予算については、適正かつ計画的な執行に取り組んだ。また、一般需用費のセンター執行率については、60.8%と前年度より下回った。次年度については、執行率向上に向けて取り組む。
- ③ 工場扇の購入やH R教室に加湿器を設置するなど、新型コロナウイルス感染症対策に対応した学習環境整備を行った。
- ④ 校名変更に伴い、正門の校名板および屋上の校名板の改修工事を行った。

2 次年度以降の課題と対応

新型コロナウイルス感染症拡大防止に最優先で取り組む中で、今年度も基礎・基本の習得を通して基礎学力の定着を図るとともに、資格取得指導に努め、学習意欲の向上を目指した。

学校行事を実施することが厳しい状況の中、スポーツ大会や文化祭の開催内容を工夫して、学校行事を実施した。また、セーフティ教室では、感染症対策を徹底した上で、自転車の正しい乗り方について実技指導及び実技体験を受けた。

12月に実施した、授業評価や学校評価アンケートの結果は概ね良好であったが、「読書活動がさかんで、図書館の利用者も多いと思う。」や「生徒が地域行事に参加するなど、地域との交流を活発に行っていると思う」の項目は、生徒・保護者・教職員の6割近くが否定的な回答であった。

G I G Aスクール構想の実現に向けて、高等学校における「ひとり1台端末」の活用が始まり、オンライン授業の実施やI C T機器を使用した授業、部活動での使用等あらゆる場面での活用が期待されていたが、十分な活用状況とまでは至らなかった。

これらの課題を踏まえ、授業力の向上を図るため、教職員の研修や情報交換を実施する。また、以下に示す取組を行う。

- ・ 個に応じた丁寧な指導を継続実施するとともに、補講や期末考査前後の補習を行い、授業に取り組む意欲及び基礎学力の向上を図る。
- ・ 授業規律の徹底や問題行動の未然防止を図る。
- ・ 生徒のメンタルヘルスケア及び保護者の相談等に対応するため、全員面接の実施を始め、スクールカウンセラー、Y S W、専門医等と連携した取組を一層充実させていく。
- ・ 資格取得を通して、生徒自らが主体的に学ぶ態度を育成する。
- ・ 学校だよりの定期的な発行やホームページの充実、中学校訪問等を通して、広く本校のP R活動を推進する。

- ・キャリア教育全体計画に従い、HR活動や面談を通して自己の生き方・在り方や望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、基礎学力の定着を図り、生徒全員が希望する進路を実現させる。
- ・ものづくりの学習をとおして、興味、関心をもたせ、生徒の自発性、学習への達成感等を得られるように、生徒一人一人に合った指導を行う。